

研修報告書 No.22

所 属： 東邦大学医療センター大橋病院

研修先： 大月病院

私は平成 31 年 3 月に大月病院において、地域医療研修をさせていただきました。地域医療研修を高知県で希望した理由は、普段東京では経験できないことが経験できるのではないかと思ったからです。当初、見慣れない土地での研修なので不安も大きかったですが、地域の方々はとてもやさしく接していただきましたし、病院の上級医や看護師、薬剤師、臨床検査技師の方々にも親切に指導していただきのおかげで研修することができました。グラム染色を学生の時に降やったことがなかったので、技師さんをお願いして顕微鏡をのぞかせていただいたりと普段の病院ではできないことが経験できました。

1 つ残念だったのは、強風で沖の島診療所での研修ができなかったことですが、それも地域医療ならではのようです。

大月町は町民 5000 人程度でそのほとんどが高齢者であり、近隣に急性期病院がないため急性期から慢性期、訪問診療の全てを担っている地域の中核病院でした。大月病院の常勤医師は 3 人しかおりませんが、そのすべてを 3 人で担当されておりました。

非常に驚いたのが、上級医の 3 人は外来患者さんの名前をすべて覚えていたことでした。都市部の大きな病院にいたときは覚えていなかったそうですが、大月病院にいと自然と覚えてしまったそうです。そんな温かい雰囲気の中で行う診療は非常に有意義でした。その 1 か月の中で、とても鮮明に覚えていることが 2 つありましたのでここで挙げさせていただきます。

まず 1 つ目が先生方の技術の高さです。上級医の先生方はみな自治医科大学を卒業されており、卒後 9 年間は地域医療に従事しなくてはならない状況でした。週に 1 回だけ専門の科の勉強ができるそうですが、ほかの日は大月病院で仕事されています。大月病院には内視鏡検査の設備がありますが、内視鏡の技術が大学病院で消化器を専門にしている先生と変わらなかったのです。それまで、数をたくさんこなすことが手技上達の近道だと考えていた私には、とても衝撃の出来事でした。内視鏡技術を週 1 回しか学べないことから、1 回 1 回の集中力がとてつもないのです。大月での上級医の姿勢を忘れずに今後の医療への姿勢にしたいと思います。

2 つ目が地域の患者さんと医師の関係性の深さです。自分が研修していた時期が 3 月ということもあり上級医のうち 2 人が 3 月で退職ということでした。往診している際に上級医が今回で往診は最後になりますと挨拶すると、患者さんは先生に命を助けていただきましたと涙を流しながら話すのです。外来においても同様に涙を流して感謝されている患者さんがたくさんいました。所属する大学病院ではそのような光景を見たことがなかったの

で自分もとても感動しました。本来医師の仕事は感謝されるためにするものではありませんが、あのように感謝されるとそれまでの努力が報われたように感じ得ます。

今までもそうでしたが、それ以上にこれからは目の前の患者さんのそばで最善の医療を行いたいと思います。

お世話になった先生方は、地域医療のことを熱心に考え働いており、医師としての姿勢の多くを学ばせていただきました。院内の医療スタッフの方々にも大変お世話になりましたし、地元の方や救急隊、地域包括支援センターの方など多くの方々にお世話になりました。研修を快く引き受けてくださり、医療のことのみならず多くのことを教えてくださった大月病院の方々にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。高知県で働いているわけではない、県外から地域研修で来た研修医に時間を割いてご教授くださり心から感謝申し上げます。この1か月間で学ばせていただいたことを忘れずに今後も精進して参ります。